

唱歌殘簡

【凡例】

- 一、本項には、国立能楽堂蔵『唱歌残簡』（整理番号1―7）を翻刻した。
- 一、底本を忠実に翻刻することを原則としたが、印刷上の制約、通読の便宜を考慮し、左の方針に従った。
- 1、改ページは『で示した。記事が欠落していると思われる箇所は「欠葉あり」とした。
 - 2、適宜、句読点をふった。ただし、唱歌は底本のままとし、句読点を補っていない。
 - 3、漢字の異体字や旧字体は通行の字体や新字体に改めることを原則とした。
 - 4、底本は平仮名・片仮名を混用しているので、その別は底本のままとした。唱歌の「り」は「リ」と「里」で表記されているので、前者を片仮名、後者を平仮名にあてた。合字の「ㄱ」はそのままとした。
 - 5、本文に傍記される小文字は小さいフォントで示した。挿入と認められる小文字は本文に（ ）で組み入れた。
 - 6、難読文字や虫損・破損等により文字の判読しがたい箇所で字数のわかるものを□、わからないものを「」で示した。推定は下に（∴カ）で示した。見せ消字は「―」で示した。
 - 7、能の詞章と認められる部分は「」に入れた。
 - 8、朱墨の区別はしていない。
- 一、翻刻は、森田都紀・高桑いづみの二名が分担しておこなった。その下原稿に基づき、山中玲子も含めた三人の輪読で全体の内容を確認し校訂本文を作成した。

【翻刻】

一 脇能之一セイノ笛

1

ひやうひヨうるりやるりやリ。(初メノ段通テツケル所ニテ□件カリ吹也
□件カリ吹テ／まづ也)
 ひやうたうくくくひやうらるいやるい。ひゆひやらひよろい。ひういや
 ひうやらりやるりり。ひやいひうやうひうひうい。ひういやらるい
 ひういやふら。ひやりうひうらるいやはひやろうく

リひやう
上ヤエナキトテ
マクワ上テガ

一 松風ノ一セイノ笛 山ノは音取とも云

2

ひふり。打テスアトシテカヨ ひや。ひういひういやう。(□件カ
リ吹テ／まづ也) ひよるり。(ひういやう。トクガ
同前也)
 ホひり。ひたうくくくくたらうやるい。たうくくいやらゝるい。六ノ下

マウラ上テガ
 ほひやうるり。
ハヤシナシハツ、ケテアツ。皆何れニても同前也

一 脇能之出羽ノ笛

3

ひよるりやるりやリ。(□件カ
リ吹テ／まづ也) ほひやろるらら。(□件カ
リ吹テ／まづ也)
 ひやうたうくくくひやうらるいやるい。ひういやらひヨるるりやうく。(段ノ
だん通テノマ
吹也ノオオ
トテアリ)
 ひういやりうりやるりり。ひやいひういやうりうひうい。ひういやう
 るるい。ひういやうふら。ひやりうひうらるいやはひやろうく

大出餘ガ
 ひやう

一 僧ノ出羽之笛

4

ひよるりやるりり。カ
ヤウソフ ひういやひうら。カ
ソフヒア
ロル、
(□件カ
リ吹
同段也) ほひやりやリ。(段ノ
だん通テノ
オオトテ
アリ)
(大出
ルリ見
テ) ひやうくくくくくひや

(欠葉あり)

- 5 一 ひやらたゝり。^{すて候}ひやろりよるろらひういひよるり
 一 そうてうにて松風ノかゝりの
- 6 一 ひういひやろらひやるらるらいひよるり
 一 うらふゆりこむ
- 7 一 ひやらひうやう。^{すてる}ひやいたんたるひやるらるひういひやうろり
 一 序ノ舞ノ一段ノ手 もみちかりに由
- 8 一 ひやらひうやう。^{すてる}ひやいひやあらるら。^{モッ}らるらるらいひやうるり
 一 同一段ノ手
- 9 一 ひやらひうやう。^{もッ}ひやらひやいひやゝゝひやいひやるい ゆり也
 一 同一段ノ手 もみちかり二由
- 10 一 ひやらひうやう。^{すてる}ひやいひやるいひやるらるひういひよるり
 一 同一段ノ手
- 11 一 ひやらひうやう。^{もッ}ひやら。ひういつろらひうい。ひうやう。ひうるいひやうるり
 一 同一段ノ手
- 12 一 ひやらひうやうらうふろいひよらひやゝゝるい ゆり
 一 同一段メの手 とくさノ本手
 一 同一段ノ手 すけよりノ伝

13 一 ほひやらひうい^{すて}やう。ひやいひやうくくひやうい^{すて}やうほひやりひやらろひやるいひよ□リ』

14 一 ひやらたゝり。ひやいひやらうひやたんくゝるいひ^{ゆり}やらる

一 序ノ舞ノ二段ノ手

15 一 ひやらたゝり。ひやいひやらひや。ひやら。ひやろらたんくゝるいひ^{ゆり}やらるい

一 同二段ノ手

16 一 ひやひういひういつ^{モツ}ろら ゆり

一 同二段ノ手 松風ノ本ノ手

17 一 ひやらたゝり。ひやいひやろらるら。ひやらるらろ。ひやるいひ^{ゆり}やらる

一 ハノ舞ノ手 黒かしらに能候

18 一 ひやらたゝり。ひやいひよりりひうい^{モツ}やあろひうらろらゝりりうら

一 山うはノ手

19 一 ひやらたゝり。ひやいひ^{●●●●}やら^{●●●●}ら。ひ^{●●●●}や^{●●●●}らる^{●●●●}りひ^{●●●●}やら^{●●●●}る ゆり

一 ハノ舞ノ手

20 一 ひやらほゝひ。ひやいひやひ^{モツ}うい^{モツ}や ろ ひ^{モツ}ゆらろららゝりりうらひやひ^{モツ}やりひ^{モツ}う^{モツ}や^{モツ}らう

一 黒かしらノ手

りうら。ひやりやりひうやらり。ひやひ。ひうやらり。ひやるルりうやりうや
りや。ひやりやり。ひうやらり。ひやひひひよるり

26 一 のツとノ笛
一 ベニツツを打ス ひやらくくくくらるら、ひういやう。ひやりうひうらるひや。ほひやろうく

27 一 とをるノからすてノ笛
一 ひういやうひういやるらんたら、ひういひういひやうろ□ろい

28 一 さかりはノ笛
一 ひうやら。ひやいとら。ひやらとろい。ひうやら。ひやいひうやう。ひやろら。ひやらららい。
ひやりほう。二段 ひよるるら。ひやいとら。ひやらとろいひうやら。ひやいひうやう。ひやいと
ら。ひやら、らいひやるほう。三段(ほひり) ひやいとら。ひやいひうやう。ひやろら。ひやら、
らいひやるほう たりうろ

29 一 乱れノかゝり 但一ツにて二ツノゆきやう
一 舞 ひやらり。はねる ひうやりツらる ひやるら
同ひやらり。ひうやりやりやりツリ

30 一 同かゝり一ツにて二ツノゆきやう
一 タカネ ひや 中キル ひうい。 中ノタカネ ひよるりりツらろひやるら 『

31 一 かクノ手
一 ひやとろら、ひやらつうひういひうりやりやりひやうろりひやらろりひよる

らるらゝりやるり

32 一 かクノ手ノちノかわり
一 ひやとろらゝ。ひやらつうひうもつてひうりやりひやうろりひやろりひよろらる
らゝろ。ひやらり。ひやろるら

一 かクノ手

33 一 ひやらいひうやう。ひやろゝひやいひやろ。ひやうろりひゆいひやろ。ハルひやらりひやるり

一 かクノ手 但地ノ手

34 一 ひやらいひうよう。ひやろゝらるらるら らゝりやるそのま□□ソ□

一 かクノ手 同地

35 一 ひやらとろい。ひゆやらるらいひうやう。六の下ひやろゝらるらゝりふ。
りやるり

一 かクノ手 同地

36 一 ひやらとろい。ひゆやらるらいひうやう。六の下ひやろゝらるららゝ
りふ。引りふやるり 『

一 かくらのかゝり

37 一 ひよるひやろいひやるひういやらり。ほひやりやりつうり。ひくくくやりやらりやり
一 かくらのかゝり ひとりのハちより

38 一 リツリツりうひやるるひや。らゝらゝらいツららゝ、

39 一 一 かくらのかゝり みきより
 リツリツりうひやるるひや。ららららいツららゝ、

40 一 一 かくらノ手
 ひやひやらるらゝつらツいたるららひういひやいツうらゝら

41 一 一 かくらノ手
 ひようるらひうやう。ひやらリやらゝリやらリやらゝゝひやりやらリやらひやいとくひやるら

42 一 一 かくらノ手
 ひやらツららゝ。らゝらゝらららゝうツひやるるるい。ひやらツらゝら

43 一 一 かくらノ手
 ひやらいツららゝ。らゝららららゝるるうひやるるるい。ひやらいツららゝ、

44 一 一 かくらノ手
 ひやひうらるらい。ひやらるひやるららいツリツららゝ、

45 一 一 『

(欠葉あり)

46 一 ひやうろらひよるりやるりりやり。ヲヒヤアロルラ、ヲヒヤリヤリ アトゆりよし

へニサシを打出

一 おきなの舞の吹たらすの吹やう

47 一 ひやるるるひよるりやるり 上ニツを吹出し攝能奏一七ノ吹出 出羽とめ

は手

りやり。ひやいひういやうらうひうい。ひういやら

48 一 しんノ序ノ笛 頭十一
一 ひひうりうひほらゝろ。ひやるいひよろ。ひやいほらゝろ。ひやひやらりうらり。

ひうやらり。ひやひやりひよら。ひやいほらゝろ。ひうるいひよるり。ひやいひやらひや。

ひやひやら。ひやらたんくろ。たんくりや。ひやろら。たんくるいひやるるい。ひやるいひよるり

一 僧ノしんノ序ノ笛 さし七ツ五ツ三ツ九ツも

49 一 ひひうりう。ひほらゝろ。ひやるいひよる。ひやいほら□ろ。ひうるいひよるり。ひやい

ひやらうひや。ひやひやら。ひやらたんくろたんくりや。ひやろら。たんくるいひやるるい

50 一 なのりノ笛ノしん
一 ひうるるひやひやるほひやほ

一 わき能ノ大神ノなのりハぶたいまん中途出候へてなのる也。又外之
わき能てなき大神ノなのりハシテハシラノサキまで
なのる。おとも僧も同断。ミ合かん用也。

一 同 さうのなのり

51 一 ひやるほひやほ。同 きうの吹やう ひやらゝろい。ひういやう。ひやほ 『

(欠葉あり)

58 一 「猶々橋のいわれ委御物語候へ」 カンカン。「これすなハち雨のうき橋」たかね一ツ。

59 一 「則橋のとくとかや」 六ノ下一返。「又ゆミヲひけるかたちなり」 コテ一ツ。

60 一 「つねに世界のハなふりテ、しやうちやクきんくこ」 たかね一ツコテヘヲトシテ一返。

61 一 「しはらく待せ給や。やうかうの時節も今いくほとによもすきし」 一乱序有

二大夫申入也。「こしらへ出き候」おき、合。さてツ、ミ太こかゝりたる

ミ合。カタヒシキ吹、乱序ニかゝる。追付大夫し、ノ

おもてニし、かしらおきてかるく、と、シテはしらノ

ちつとさきにつくはい申候。それヲ見て、笛かた

ひしきふき、し、ノふへふく也。其内大夫、色くマエノだん

ノウへ、^{二度}あかり、さてトメノときハサキノダン□アガリ、又

マエノダンへもキリ、ソリカエリシテ、ダンヲヨリテ太コ打ノ方ニつくばひ

申候。その時トメノふへなり。委ハ良おほへ不申候。

唱歌口伝有也

62 一 「獅子とらテンの舞楽ノみさんの」 高音ノはねテ一ツ。

63 一 「万歳千秋と舞ヲサメテ、獅子ノ座にこそなをりけれ」 たかねヲサヘテ。トめ 一

64 一 そうくわノ序 ◎ヒヨルリヤヒユイ。ヒヨリヤリツリリ。

リリリヤウ。ヒウヤヒウヒヤ。ヒユタウくくヒユイヒ
ウイヨ。ヒヤアラアヒウイヨロ。ルイ。ヲヒヤアリウロ 一

65 一 とくさの二段の手 ひやらほゝひ。ひやいひやあらろ。ら^{もッ} ゆり也。
 一 此手ハ子ヲミテなく仕舞有時ノ手也。おちくわせんノいゑノ能也。

66 一 せきてら小町ノ二段メノ手
 一 ひやらほゝひヨリり ひういやうらるゝ ゆり也。

67 一 序の舞ノ序 色々かやう吹くも ひよるりひういひうりり。ひうい^{カシノヒシキ}やひうら。ひうひや^{もッ}くゝくゝ
 ひやらいひういやう。るら^{ヒシキ}ひうひうひやらゝるい。ひやうらひやらるほ^{たかね}ひ リ ひやひうい。ひよるり

68 一 早舞ノ手
 一 ホゝひ。ひやいひやあら。ひや^{もッ}ひや あ[●]ら^{●あたる} るりひやるひやら ゆり

69 一 同手
 一 ひやらほゝひ。ひやいひやあららるら。ひやらるらろひやるりひやら ゆり

70 一 同手
 一 ひやらひや^く ひやいひや^くるりひやら ゆり

71 一 同
 一 ひやらほゝひ。ひやいひやひういやろひうるりうらひやるりひやら ゆり

72 一 一序ノ舞ノ手 もちり
 一 ひやらひうい^{もッ}や ひやらひういひやいたるらるひうらる□らろ ひうらるり
 『